

自動導入赤道儀 *Temma 2 Temma 2 Jr.*

Temma2 赤道儀の特徴

■赤経・赤緯駆動モーターと電子回路をすべて赤緯体に内蔵

EM シリーズ赤道儀は、赤経・赤緯駆動用モーター 2 個、それぞれの駆動ギア、そして駆動用電子回路までも、すべて赤緯体に内蔵しました。これにより、外付け部品を無くして外観をスッキリさせ、高速駆動及びガイドの修正は手の中にフィットする小型コントロールボックスでおこなうことができます。

■天体の導入に便利な最高 700 倍の高速駆動

電源スイッチを ON にすると赤経モーターが恒星時駆動を開始し、極軸を合わせておけば一度捉えた天体を望遠鏡の視野から逃がしません。天体の導入は、パソコンを繋いだ Temma2 シリーズの赤道儀なら、見たい星をクリックするだけで自動で天体を導入してくれます。USD3 タイプでも望遠鏡に触らず、ハイスピードモードでコントロールボックスの 4 つのボタン操作だけで望遠鏡を目的の天体へ向けられます。また、ガイド撮影時はノーマルモードにスイッチを切り替えることで先ほどのコントロールボックスにある 4 つのボタンが、ガイドの修正用ボタンとして働きます。修正速度は、ボタン操作により恒星時の $\pm 10 \sim 90\%$ の範囲で段階的に調整できます。

■高精度極軸望遠鏡を内蔵

タカハシの赤道儀には、念入りに調整された極軸望遠鏡が内蔵されています。倍率はそれぞれの機種に適した、6 倍から 11 倍の極軸望遠鏡をセットしています。スケールパターンは、視野内に時角早見機構を内蔵し、誰でも素早く精密な極軸セッティングができるタイプと (EM-200, EM-400)、北極星と天の北極との距離角を半径とした 3 円と方位角を読み取る時間目盛りで構成されたタイプ (EM-11, EM-500)、があります。

また南半球で極軸合わせにの目印になる八分儀座 σ 星の指標も、EM-400 以外の機種に採用しています。さらに、EM-200 は時角早見機構、EM-11 は八分儀座の σ 星と τ 星の 2 星を使うもので、より容易にそして精度よくセットです。もちろん、モーターも南半球用に簡単に逆転できます。

